

平成22年度 第1回 地盤工学表記法委員会
WG1&WG2合同
議事録（案）

日 時	平成22年7月21日（水）15：00～17:00					場 所	3F中会議室		
委員長兼 WG1リーダー	岸田 隆夫	○	委員兼 幹事	伊貝 聡司	○				
委員兼WG1	鈴木 直子	○	委員兼WG1	石井 建樹	×	委員兼WG1	杉本 隆	×	
委員兼WG1	福岡 秀基	○	委員兼WG1	谷 和夫	○	委員兼WG1	大熊 英二	○	
委員兼 WG2リーダー	鈴木 明夫	○	委員兼WG2	久保 裕一	○	委員兼WG2	千葉 久志	○	

(○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席 △：未定)

議 題：

1. 委員構成について（資料-22.1.1）
 - ・委員名簿について、誤植等を確認した。
 - ・委員の会務について、委員兼WGメンバーとする。

2. 基準部会報告（資料-22.1.2）
 - ・JGS基準のJIS化の促進、基礎設計・施工基準の促進について、正副会長会議での議論を確認した。

3. 用語の定義（JIS化）について（資料-22.1.5）
 - ・本年度は準備委員会の位置づけであり、来年度には本委員会の立ち上げが必要である。
 - ・準備委員会の役割として、本委員会の方針（案）、用語の選定と選定基準案、本委員会の組織案、スケジュール案などの策定などが必要である。
 - ・選定する用語は100～200語程度を想定し、基準に関わる用語を選定する。
 - ・専門委員の追加は、作業を実施していく中で、必要があれば行う。現時点では、用語数も多くない、現メンバーで手分けして作業を実施する。
 - ・原則として標準用語の上位概念がJIS用語であるため、標準用語から選定することとなる。
 - ・JISでの用語の定義と標準用語の定義が異なる用語が存在している（間げき水圧など）。また、赤本JISと青本JISで定義されている内容に差異が認められる（最大粒径、含水比など）。基準内では、該当する基準に関することを中心に定義しているが、今回、策定を目指すJIS用語では、地盤工学の中で共通認識されている定義をすることとなる。したがって、個別のJIS特有の定義が必要であれば、個別のJIS内で定義することが必要である。
 - ・次回委員会では、スケジュール案、用語の選定基準案などについて議論行う。

4. 標準用語集の出版について
 - ・委員長より、手軽に使える辞典の出版を実施したいとの提案を受け、議論を実施した。
 - ・「標準用語集2010」といった継続出版が可能で、安価な出版物で学協会へのアピール

にもなる。

- ・用語の変更履歴などを残しておくことも重要である。
- ・安価な出版物を目指す場合、顧客層を学会関係者以外にも広げないと、採算ベースが合わない可能性がある。

5. 標準用語（標準キーワード）について（資料-22.1.5）

- ・標準用語の一覧は、執筆者側としてはあいうえお順、研究発表会など運営側としては章順の表示が望ましいため、両方の書式で作成する。
- ・次回委員会では、会告文案、基準部会への上申書案について議論を行う。

6. 用語審議「試料の乱れ」について

- ・青本委員会で「乱れの少ない試料」という表記となった経緯について意見交換を実施した。
- ・サンプリング方法に関わる乱れ（サンプリング品質）のとテストピースとしての乱れ（テストピースの作成方法とテストピースとしての品質）の議論が混在しているため、再整理が必要である。
- ・谷委員がたたき台を作成し、次回委員会で議論を行う。

7. その他

- ・委員会の日程について、大まかな年間スケジュールを作成することとする。
- ・日程確認は、次回および次々回の委員会日程について確認する。
- ・委員会の議事録はHPへアップできるようにする。

8. 次回委員会

- ・次 回：平成22年9月6日（月）15:00～17:30
- ・次々回：平成22年11月1日（月）15:00～17:30

配布資料：

資料番号	資 料
資料 22-1-0	議題書
資料 22-1-1	地盤工学表記法委員構成案
資料 22-1-2	基準部会報告
資料 22-1-3	標準用語一覧
資料 22-1-4	用語審議（試料の乱れ）
資料 22-1-5	赤本 JIS 用語の定義比較